

PREX NOW



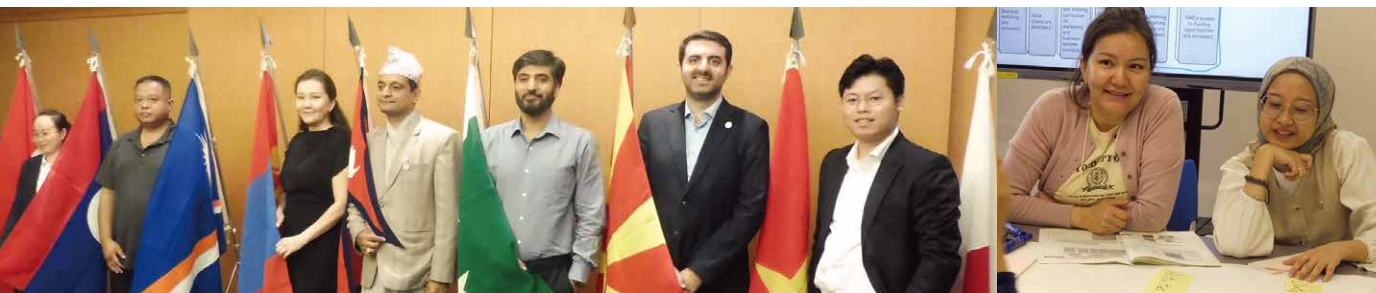
世界と関西をつなぐ VOL.280

特集：設立35周年を迎えて



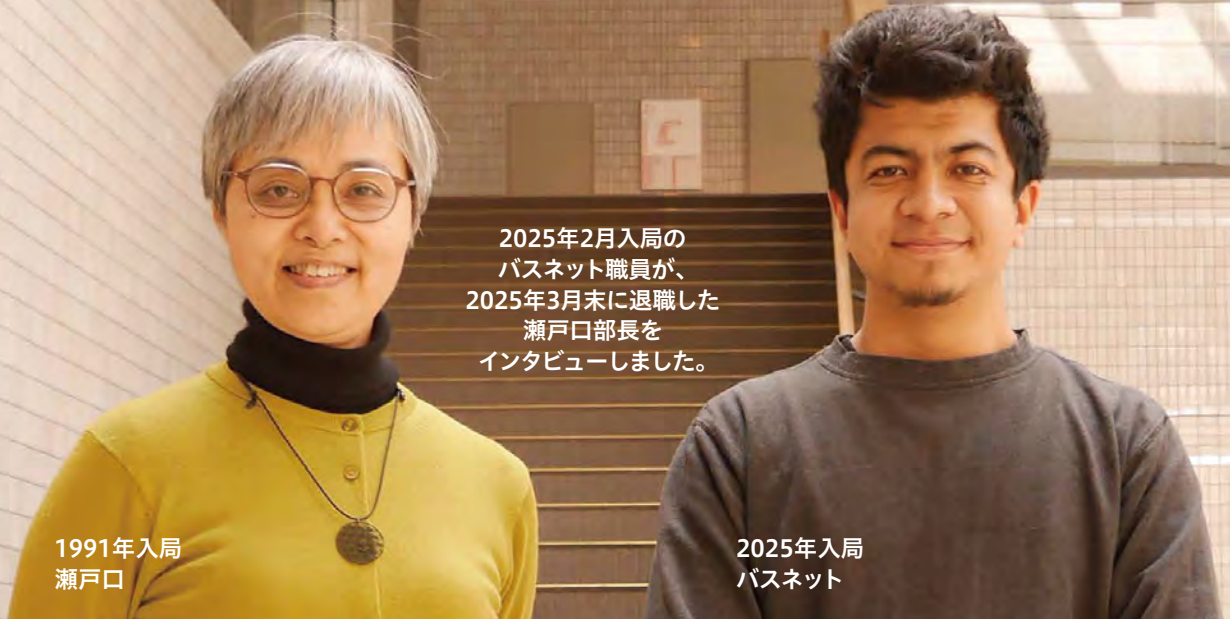
35周年、 プレックスの潮流。

SINCE1990 研修卒業生20,000人超 対象国158力国・地域



PREXは、1990年に、関西の産官学が協力して作られた団体です。97社の民間企業と6自治体等が35億円を出捐し、人材育成と国際交流を通して、途上国の経済と社会の発展のために、また関西経済の国際化推進の中心となることを目指して設立されました。以来35年、人材育成と交流に尽力してきました。国の内外に多くの仲間ができ、研修卒業生は、20,000人を超え、対象国は、158力国・地域となりました。

研修の軌跡と指針。



2025年2月入局の
バスネット職員が、
2025年3月末に退職した
瀬戸口部長を
インタビューしました。

1991年入局
瀬戸口

2025年入局
バスネット

PREXの魅力は、ニーズにあった研修プログラムを作ってきたこと。

瀬戸口:2025年3月、退職にあたり、この34年を振り返りました。改めてPREXの魅力は、一所懸命に一人ひとりの参加者に寄り添い続けることや、それを前提にしたプログラムを作ってきたことだと思います。手間もかかり、コストは悪いかもしれませんが、そういうPREXの職員の様子に周囲の皆さんも協力していただいていると思います。もちろん、まだまだ成長しなければいけないことやプロとして充実させないといけないことはあると思います。しかし、それと引き換えに「熱さ」「思い」が減り、「こなす」ことだけになってしまえば、PREXの強みをなくすことになるような気がします。だから、両方とも研ぎ澄ますべきだろうと思います。

1990年、設立のころを振り返ると、今は時代が変わった、という実感です。ODAもPREXも変わりました。PREXは、関西経済同友会の太平洋アジア調査団の提言「新・太平洋時代の到来と我が国の役割一ゆるやかで、しかも確固たる連帯を求めて」が発端となり設立されました。ASEAN諸国を中心に人づくりが必要だという時代でした。それが、本当に十年もしないうちにいろいろな国が経済発展し、ODAの対象から卒業していきました。

今思えば、失礼で恥ずかしいことですが、私が入局した頃は「研修参加者に日本から学んでもらうのだ」と思っていました。知らず知らずのうちに途上国の方に学んでもらう、そういう気持ちがありました。今は違います。もちろん相手の国が経済成長しているということもありますが、発展途上の国からであっても、日本が気づかされることが多いです。日本がベストな発展をしているわけではなく、日本にも世界にも共通する社会課題がたくさんあるからかもしれません。

バスネット:35年で国際情勢と研修内容はどう変化しましたか？

瀬戸口:現在は、年間10件ほどの研修をJICA関西から受託していますが、設立当初は、PREXが、開発途上国のニーズにあわせ、研修内容を企画し、JICAに提案する形でした。研修内容は、国際情勢や各国の経済状況に応じて変化してきました。当初は、企業経営に関する内容が主流でしたが、時代の変化とともに市場経済化や環境問題、投資促進、農村開発などが新たに加わり、より多様な分野の研修が求められるようになりました。

特に、冷戦終結後の新興独立国や中央アジア諸国の独立とともに、市場経済化や民主化の支援が強調され、PREXはこれらの地域に特化した研修プログラムも提供しました。そして常にその時々々の国際的な課題やニーズに柔軟に対応し、研修プログラムを進化させてきました。

バスネット：研修に参加する国や人の変化はありましたか？

瀬戸口：研修参加国は、時代と共に変化してきました。当初は、アジア太平洋諸国からの参加者が中心でしたが、その後中南米など全世界へ拡がり、最近ではアフリカ諸国からの参加者が増加しています。経済成長や民主化、社会基盤の強化などが重要なテーマとなっており、PREXはこれらの地域の研修も提供しています。また、設立の初期は、例えば大臣候補の方や企業や経済団体のトップの方が研修に参加していました。日本に来て学んだことを国に持って帰り、国づくりに活かしたいということだったと思います。最近では、行政組織の課長や部長等の管理職の皆さんが増えています。それぞれの国が発展しており、日本以外の国でも学ぶ機会があるなどいろいろな理由が考えられます。

バスネット：35周年を迎えた現在も変わらないものは？

瀬戸口：変わらず大切にしてきたこととして、「国際協力を通じて日本と海外の橋渡しをし、平和につなげたい」という思いがありました。そして、研修を通じて、日本と参加国の研修員が対等の立場で関わり、相互理解や協力関係が築かれることが、PREXの成果の一つと考えています。参加者はそれぞれの国で豊富な経験を持っています。PREXは、その視点を尊重し、ノウハウを最大限に活かして、研修での学びや気づきを深めてもらう役割を果たしてきました。また、30年前に研修を受けた研修参加者が日本でビジネスセミナーを開催するために来日したり、大阪・関西万博に出展するために来日するなど、ビジネスパートナーとして日本やPREXにアプローチしてくれることもあります。中には、PREXに研修プログラム実施について相談してくれる研修参加者もいます。PREXが、単に研修を提供する組織にとどまらず、新しい事業の開発やイノベーションを推進する役割も担っているという点でも期待されているのだと思いますし、だからこそ、自分たちも学びを止めずに成長し続け、期待に応えられる組織でありたい、とっていました。

バスネット：PREXの設立の原動力は、関西経済人の高い志と地域発展への熱い思いにあり、運営基盤となっている基本財産は、関西の約100社の民間企業と6自治体から寄附されたものです。理事、監事、評議員などの構成も関西の産官学をあげての体制となっています。設立から現在まで、関西の主要企業から手弁当で20社から100名の出向者を派遣いただいています。そして、長年にわたりPREXを支えている職員が中心となり、協力いただく皆さんと連携してきたことが、PREXの特徴であり強みになっていると思います。これからも、寄附されるにふさわしいPREXであり続けるよう、自分も役割を果たしたいと考えました。



1990年 PREX設立パーティには、産官学から400名が参加。



1991年 設立1周年を祝って。

●瀬戸口/1991年、私は設立2年目のPREXに就職しました。それから34年が経過しましたが、2025年3月末でPREXを退職することとなりました。学生時代に先進国と途上国との「格差」への関心が高まっていた頃に、「途上国の発展に人づくりで貢献する」というPREXのミッションに惹かれたこと、そして、設立2年目であり、これから組織の歴史を作るメンバーとして参加できるということに魅力を感じたことが、PREXに入局した理由でした。

●バスネット/ネパールのカトマンズ市の出身です。名古屋の大学院で平和とガバナンスについて学び、2025年2月にPREXに入局しました。このインタビューでPREXが、社会の移り変わりの中で進化してきたことを聞き取ることができました。

世界に2万人の仲間。PREXグローバル

国際交流部 狭間です。私の大変思い出深い研修である2019年「JICA投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント (B)」の参加者についてご紹介します。この研修は総勢18名が参加した研修ですが、チームワークが良く、帰国5年がたった今でもやり取りをされています。一人目はモンテネグロ出身のネナド氏です。

研修は、かけがえのない知識の習得と世界とのネットワークづくり。



1

モンテネグロ
投資庁
ネナド氏

モンテネグロの海外投資と国内投資を促進させ、モンテネグロ経済促進のために働いています。具体的な業務はモンテネグロが投資家にとって格好の投資先であることをアピールすること、市場の状況や規制、投資機会について理解してもらうことです。2019年にこの研修に参加する機会に恵まれました。この経験は、投資促進に関する実践的な知識を得るという点だけでなく、志を同じくする世界中の専門家とのネットワークを構築するという点でも、かけがえのないものでした。

この研修で、築いた友情は長続きすることが証明されました。実際、ジョージアからの参加者のひとりと2度にわたって再会する機会がありました。2022年にロンドンで会い、その後、彼女の故郷であるトビリシを訪れる機会がありました。これらの経験は、仕事上だけでなく個人的にも、有意義なつながりや生涯の友情の扉を開いてくれたという意味で、この研修の価値をさらに高めてくれたと実感しています。

二人目のナティア氏は2019年の研修参加当時はジョージア経済開発機関LEPLエンタープライズ・ジョージアで勤務をされていました。その後東京大学へ留学され、修士号を獲得されたのち、現在は日本のアジア開発銀行研究所でアソシエイトとして勤務されています。

感銘を受けた研修プログラム、人生を大きく変える糧となった。



2

元ジョージア
経済開発機関
ナティア氏

当時、私は母国ジョージアの経済開発機関LEPLエンタープライズ・ジョージアで働いていました。日本での研修で得た貴重な学びにより、私は同国の投資戦略策定に貢献し、専門能力を高めて重要な投資プロジェクトや案件を管理し、COVID後の投資政策と投資促進の課題を乗り切ることができました。

2019年の研修期間中に日本で過ごした時間は、日本のユニークなビジネスアプローチを探求することを可能にし、それが、専門的な修士課程を目指す国として日本を選ぶきっかけにもなりました。2023年、私は東京大学の公共政策修士課程国際プログラムを修了しました。研究テーマは海外直接投資 (FDI)、グローバル・バリュー・チェーン、日本のFDIの流れに焦点を当てました。

研修を修了してから5年が経ちますが、同じ研修を受けたメンバーやPREXの人たちとは今でもつながりを持ち、最新の情報を得ることができています。PREXの同窓生ネットワークが友情と協力関係を育み、貿易、投資、その他の重要なテーマにおける日本の開発経験を活用することで、各国の経済開発努力を向上させていることを目の当たりにし、本当に感銘を受けました。

ネットワークメンバーからのメッセージ

国際交流部 高山です。ルチアーノ氏は2022年にオンラインで実施した「JICA先進国市場を対象にした輸出振興／マーケティング戦略(A)」の参加者です。時差の関係でブラジルでは早朝4時半や5時から開始する日もあった中、全日程に非常に積極的に参加されました。

研修員として、カウンターパートとしてPREXとつながってきた。



3

ブラジル
貿易投資促進庁
ルチアーノ氏

2022年に研修に参加し、2023年および2024年の2回にわたりPREX独自の「セミナー実施支援プログラム」に応募し、「大阪・関西万博を見据えた対日輸出のための日本市場理解」をテーマに、ブラジルの企業経営者等を対象としたセミナーを実施しました。私は10代の頃、父の転勤で紛争復興期の隣国で暮らしました。その後ドイツに移り、ドイツとブラジルの状況の格差を目の当たりにしたことから、スペインで国際開発学を専攻し、博士号を取得しました。その間、国連やNGOを通じて米国ニューヨークから東ティモールまで、様々な国で課題解決プロジェクトに携わりました。今は母国ブラジルで、特にアマゾン環境保全と貧困削減の両立を視野に、ブラジルの輸出促進に携っています。その一環として世界で行われる大規模展示会に従事しており2025年の「大阪・関西万博」ではブラジルのパビリオン渉外担当官として来日予定です。今後もPREXと繋がりたいと思います。

国際交流部 瀬戸口です。アバキロフ氏は、2009年度「中央アジア経済団体強化研修」参加者です。2003年に起業後、「キルギスは資源のない国で将来性がないのでは?」「内陸国だから不利なのでは?」という声もある中、「IT事業、ソフトウェア開発は、優秀な才能ある人材がいれば成長できる」と活動を続けられています。

日本から学んだことは大きいです。



4

キルギス
ハイテックパークCEO
アバキロフ氏

キルギスは、内陸国で海がありません。インターネットは、キルギスにとって世界と自由につながる「海」です。インターネットにより、チャンスを見つけ、国外のお客様とやり取りをはじめました。IT協会を設立し、日本での研修に参加し、経済団体の役割や活動方法について日本から学ぶことができたのは、とても価値のある事でした。日本の商工会議所、小さな協会、企業の在り方、企業でのカイゼン活動などから多くのことを学ぶことができました。そして、「社会」「ビジネスセクター」「政府」がトライアングルで連携して協会の仕事をやる、という形をキルギスにコピーすることができました。2008年に設立したIT企業のソフトウェア・サービス開発者協会は小さい協会でしたが、色々なプロジェクトを進めることができました。それは研修に参加したからです。地下資源がなくても才能ある人材がいる。海へのアクセスはなくてもインターネットがある。そして、知識は研修で得ることができました。

これまでは、「キルギスに住みながら全世界で働く」をコンセプトに活動してきました。人間同士の関係が大事だと思います。そして一歩ずつ継続して、価値を高めることが大事です。そういう点を含め、日本から学んだことは大きいです。



自国の現状を
見つめなおす。

研修員に語りかける、継続的かつ安定成長のための3つの問い。

国際交流部の児島です。2025年1月にJICA投資促進・ビジネス環境整備(B)を担当しました。

本研修は、アフリカ諸国における安定的な経済成長のための産業構造構築を目指し、自国の未発達な零細中小企業への支援を中心に国内地場産業の活性化を行い、同時にビジネス環境の整備を進めることにより外国投資を促し、持続可能で包括的な開発が行われることを目的として、アフリカ各国の研修員を対象に約1か月訪日研修として実施されました。

Q1、アフリカ諸国は、継続的かつ安定的な成長を皆が享受できる産業構造を備えているだろうか。

Q2、継続的かつ安定的な成長を皆が享受できるための投資が奨励、促進されているだろうか。

Q3、アフリカの起業家やその他のアクターは、継続的かつ安定的な成長に資する分野に意欲や潜在的な能力を持っているだろうか？

上記3つの質問は、研修の初日にコースリーダーの高橋基樹先生(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授)から研修員に投げかけられた問いです。本研修は研修員が自国の現状(強みや弱み、課題等)を見つめ直すことからスタートします。そしてさまざまな機関を訪問することを通じ、日本における投資誘致やビジネス環境整備の政策を学ぶだけでなく、海外に積極的に進出している企業を訪問することにより、投資側の視点を踏まえたリアルなコメントを聞くことができました。ほかに、課題を克服するための論理的プロジェクトを立案することを目的とした演習として「課題分析ワークショップ」を取入れ、研修員自身が直面する課題をどのように解決するかを考え、計画しました。本研修の日本での学びが自国の投資促進と地場産業の活性化に寄与できる政策の策定につながることを願っています。

今年はコースリーダーを務める高橋教授が京都大学を定年ご退官される年でした。長きにわたり熱心なご指導、豊富な知見を惜しみなく研修員の皆様にお伝えいただいた高橋先生の多大なるご協力に心より感謝申し上げます。

(国際交流部 児島)

私が大切に している国。



ユネスコ世界遺産
ハヌマンドカ城エリア
(私の故郷)

地球を宇宙から見て、丸い緑の惑星だと実感するように、私もネパールを離れてしばらく経ち、外から見ることで、その良さを再認識しています。

国際交流部のバスネットです。

ネパールにいたとき、学生交換プログラムで来られた大学の先生方や観光客の方々が、ビールを飲みながら「ここほどゆったりしてリラックスして住める国はなかなかないな。人々も温かいし、ここに移住したい」とよく話されていたのですが、その意味が当時はよく理解できていませんでした。交通機関が時間通りに動かない、免許更新のために長い時間がかかる、行政サービスが遅いなど、さまざまな課題がありました。また、政治的なストライキで学校が休校になるなど、ネパールの国としての機能に疑問を感じることもありました。にもかかわらず、なぜ外国の方々がネパールをそう評価するのが理解できなかったのです。

しかし、日本に滞在してしばらく経つと、ネパールの人々は、時間に厳密ではない部分がありました。それでもリラックスして生活していると感じられるようになり、ネパールの人々の温かさを改めて実感しました。また、「ネパールから来ました」と言うと、ネパールの美しい自然や豊かな歴史について褒めてくれる人々が多く、私は自分の国について良く思ってくれる方々に囲まれていることを嬉しく感じています。最近では、ネパール人も日本に増えてきており、日本とのつながりが深まる中で、私はその架け橋となることを意識しながら歩いていきたいと考えています。

(国際交流部 バスネット)

ユネスコ世界遺産ハヌマンドカ城エリア(私の故郷)内にあるビシュヌ神の乗り物ガルダ、鳥の王といわれている(日本語では迦楼羅)ものです。



PREXは、2025年4月、設立35周年を迎えました。当財団の事業活動にご協力いただいている企業・団体・行政機関・大学関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

35年という月日をかけて、それぞれが培ってきた経験やノウハウがPREX職員ひとり一人に受け継がれ、また新たな挑戦への礎となります。今号ではそんなPREXの熱い思いを感じていただければ幸いです。お読みになられた皆様のご意見ご感想もぜひお聞かせください。お待ちしております。

E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

万博の開催に合わせて PREX 同窓生が来日しています。

大阪・関西万博では、世界各国のパビリオンや出展、ナショナルデーが開催されています。PREXの同窓生がパビリオン出展に関わっている国もあります。

本号5ページに紹介したキルギスのアバキロフ氏、ブラジルのルチアーノ氏の他、モンゴルやジンバブエの同窓生からも来日のニュースが届いています。万博のナショナルデーカレンダーはこちらです。皆様も訪れてみてください。

<https://www.expo2025.or.jp/events/>



写真提供:2025年日本国際博覧会協会

新たなメンバーを加え 新体制となりました！

右から、新国際交流部長の酒井、パナソニックオペレーションズ株式会社から出向の福嶋、2月に入局したバスネットです。



詳細はこちら→



2025年度研修事業スタート

2025年度は25件の研修・交流事業の実施を予定しています。そのうちの15件は、JICAやコンサルタントなどから受託しており、途上国の行政官・企業関係者が対象です。

～5・6月に実施する主な研修～

●JICAアフリカ地域市場志向型農業振興(行政官)(A)

南スーダン、レソト、南アフリカ、エスワティニ、ザンビア、ケニア、ジンバブエ、ルワンダ、モルディブ、ブータンの営農指導/普及を所掌する中央官公省庁や地方政府等の職員17名が参加。

●JICAグローバル市場における輸出振興/マーケティング戦略(A)

インド、パキスタン、スリランカ、東ティモール、ウズベキスタン、バヌアツの輸出促進に携わる政府、公的機関等の職員6名が参加。

●JICA中小企業振興政策(A)

キューバ、エジプト、イラク、ヨルダン、ラオス、モンゴル、ネパール、パキスタン、セルビア、スリランカ、トルクメニスタン、ベトナムの中小企業振興に携わる政府、公的機関等の職員12名が参加。

(*参加国・人数は予定)

ベトナム社員向け人材育成 研修参加者募集中！

PREXは、日本企業で働くベトナム人社員の皆様を対象とする、人材育成研修を実施しています。全日程で、ベトナム語の通訳を介します。リアルに講義・訪問を行うリーダー育成研修(7月～8月の11日間)と、オンデマンド(動画配信)の基礎研修(配信期間6月～26年2月)があります。

【申込、問合せ先】

メール: vnseminar_pr@prex-hrd.or.jp
担当者: 佐賀、荒木

連絡先:

090-1613-2581

080-9945-1778

詳細はこちら→



PREX NOW第280号(2025年5月発行)

編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事: 岡本 謙

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6

大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850

ウェブサイト:<https://www.prex-hrd.or.jp>

E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

企画制作:ユナイテッド・トゥモロー